

こんにちは！
こんにちは！

私たちはリムーブというグループです。今回インタビューのテーマは好きな音楽の時代背景についてです。

まずお名前を伺いしてもよろしいでしょうか？

はい、あの私は曾根じゅんと申します。早稲田言語学院で日本語の教師をやっています。

曾根先生ですね。曾根先生はお歳おいくらですか？

私の歳は今 65 歳ですね、おじさんです（笑）。

日本語教師に転職される前に何をなされていましたか？

はい、日本語教師になる前は、日本の三菱自動車という会社で、自動車の営業をやっておりました。海外営業の仕事です。

なんで日本語教師になろうと思いましたか？

その話をすると、とても長くなりますけど。私は 2006 年から 2009 年まで中国で働いたことがあります。中国で働いた時にたまたまですね、まあ、中国人の？あの方といろいろとも〇〇〇〇まして、その時に最初にね、日本語を教えたという経験があります。まあ、私がやっていた仕事は海外営業であったですけれども、中国に行ったら副総経理という仕事をやりました。なので、その時には駐在員が一人だけなんです。私が最初の駐在員だったのでね、その会社での。

大変ですね。

はい、大変でした。私も中国語を勉強しなきゃならないような状況になりまして、で、その時に色々お世話になった中国人の皆さんとはそういった人たちですね、何かの恩返しをできればなど、という風に思ひまして、で、それで日本に帰ってきて、日本の会社を辞めた後で、日本語教師になったという経緯です。

なんていうか、立派ですね（笑）

まあ、立派というかね、普通の会社員の経験にちょっと加えて、私元々は言語を勉強するのが好きで、大学もあの東京外国語大学なので、そういうのでね、言葉を勉強するのは好きなんです。もともとはね、そういうことなんで、中国に来てからも毎日のように、中国語を勉強していました。それで、その時に通訳の人？まあそれから日本人がどんどん増えていったので、通訳の人選というのがね、採用もしなければならなかったですね、だからその時に、通訳の人を選ぶ面接官をやってきました。面接をして、それで中国人の日本語のできる人を採ってる**たび**です。けどまあ、その時でもあんまりすごくできる人っていうとね、皆さんの方はできるじゃないかなと思ってるんですけど、すごくできる人そんなにいなかったのです。日本語を教えるって仕事も増えてしまひまして、その時に簡単に勉強法を教えたあげたという話ですね。それで退職してから本格的にやりたいなあと思ひて、それで専門学校に入って勉強しました、で勉強して一年後にここで就職しました。

つまり今のエピソードはそういう状況で、中国語を勉強しなければならなかったということですね。

そうですね、けどまあ、私のその時まで10年間ぐらい中国仕事してたんですね。出張もかなり何回も中国に行きました。色んなどこに行きました。私の会社は中国にたくさんの工場があります。で、工場あって、そこに全部担当したのですから、例えば哈爾濱とか、瀋陽とか、あとは湖南省の方とか、もう大体全部経験しました。なので、中国に行った回数というと軽く100は超えます。一か月にて3回くらい出張してしまいました。(笑) そういう関係でね、というわけで中国語をやらなきゃならないということですね、もう通訳もつけて来れなくなっちゃいましたのですね、費用削減でね(笑)。ということで、私が勉強しないと通じないという状況になって、まあ、それは迫られて、やっぱり人間は頑張れるものかなあと、そう思いますね。だから皆さんもぜひ質問に迫られて、やれるようにしてくれるとね(笑)、頑張るといいと思いますね。

頑張ります(笑)、では先生の出身地はどこですか？

私の出身地は名古屋です。生まれは名古屋だけれども、15歳くらいの時に東京に引っ越しまして、そこからずっと東京に住んでいます。まあ、**福島**にいた時と、あとは京都に何年か住んでいましたね。というわけでそういう以外はずっと東京です。

はい、わかりました。あの、先生の大学の専攻はなんでしょう？

専攻ですか？はい、私の大学の専攻はロシア語、やっていました。ええ～ロシア語をやっていますね、私会社に入ってからね、ロシア語をあまり使わなかったんだけど、最後の10年間はロシアに何回も出張に行っていて、ロシアの仕事もやっていました。その時にはロシア語を思い出しながら、色々使ったりしていました。

じゃあ先生は4つの言葉喋れますか？

まあ、喋れるというか、そんなに難しい言葉はわからないからね。生活できるレベルにはなっていますね。

それでもすごいですね。あとご趣味は何ですか？

趣味はですね、今はそんなに趣味は多くないですけど、中国にいるときは色んな世界遺産を回ったりとか、そういった旅行。週末は必ず出かけていましたね。あとはまあ、友達とお酒でも飲んで、色々お話をするね。これが一番私の大好きな趣味ですね。今もね。昔は色々な趣味がありましたね。昔の趣味も聞きたいですか？

はい、知りたいです(笑)

まあ、今日のテーマと関係する話ですけど、音楽のことを聞きたいと言われたんで、私昔大学にいた頃は、オーケストラに入って、楽器を弾いておりました。楽器が何かというと、コントラバス、一番大きい弦楽器、それをやっていました。で、大学の時にはよく演奏会とか出ていました。

そういうのを懂れますね。いともサックスやっています。

あ、そうですか？一応ね、私の娘もサックスやってるんです。で、サックス、今大学でジャズのビッグバンドに入っています。**すぐに卒業する**んですけど。そういうことで、まあ音楽をね、みんな、あの家族好きですね。

週末は主に何をしますか？

週末ですか？週末ね、今ね、実は早稲田言語学院で、毎日授業あるんですね、その準備が結構大変で、その準備をするのと、あとはちょっと気晴らしに散歩したり、小旅行をしたりとか、そういったことを、それくらいかな。まあ、そんなに大きいなことはしていませんね。

はい、じゃあここは一旦休憩しましょう。

はい、では本題に入ります、先生は学生時代には吹奏楽をやったことがありますと…

私ですか。吹奏楽はないんです、これは管弦楽です。吹奏楽は管楽器だけなんで、吹奏楽というのは管弦楽じゃなくて、弦が入ってないです

吹奏楽って

あの管楽器 ああそういうものなんですね。クラシック音楽って二つあって、吹奏楽と管弦楽っていうのがあります。管弦楽の方には弦と管と両方あります。管弦楽器というね。吹奏楽というのはバイオリンとか、弦楽器が入っていない楽器の構成のスタイルなんですね。なので、それで吹奏楽については私はやってないということなんです。

なんで吹奏楽ではなくて、管弦楽ですか？

私は弦に入りたかったんです。弦楽器ね。弦楽器に入りたかったので、それで、何を選ぶか選んだところ。高校の時に私はロックやってたんですよ、実は。ロックバンドね。ロックバンドやってたので、その時ベースをやってたんですね。だから、それでベースを選んだという感じですね

それをやり始めのきっかけを聞いてもいいですか？

きっかけ？ キっかけというか、私は元々は音楽をやりたいなと思ってたんで、大学に入ってもロックじゃなくていいから、別なことやりたいなと思っててね。で、その時に何かってと言ったら、管弦楽が一番なんか華やかだったんで、それで入ったという感じですね。

普段は音楽を聴く習慣とかありますか？

ありますよ。音楽はなんでも聞きますね。私はクラシックも好きだけど、ポップスとかね、ジャズとかね、いろんなジャンルの音楽が好きです。中華ポップスも好きです

中華ポップスについては、どなたの曲を聞いたことがありますか

私はね、聞いたことあるのがたくさんあるんですけど、やっぱりね、とても素晴らしいだと思うのはチョウジェロンですね。皆さんは多分好きだろうと思うね。なんでチョウジェロンが素晴らしいかという、やっぱりいろんなジャンルの音楽をやってるからね。だから本当に可能性が素晴らしい、すごく広いってことですね。で、最近の曲知ってますか？

はい、はい。

チョウジェロンの最近の曲、『最伟大的作品』、知ってる？あれなんか見ると、とてもなんかファンタジックな？昔の時代に帰って、昔の人たちと芸術家と交流してっていうビデオね。なんかあれを見てるとね、なんかこの人はピアノもうまいですね。あれは本当に弾いてるんだと思うのでとても上手いですね。だからとても才能豊かな人だなあと。いろんなジャンルの曲もやってるし、あとラップも上手ですね。ラップ、知ってますかね？言葉をしゃべって音楽

RAP ですね。

はい、日本語ではラップって言いますね。そういうことですね。だからそういうことでチョウジェロンは好きですね。

曲を聴いてる時はランダムで？

そうですね、うーん、ランダムに聞きますね。例えば電車に乗ってるときもね、聞いたりとかしてますね、まあ音楽聞くだけの目的で聞いているんじゃないかと、例えば時間をつぶすとか、その時には音楽はとてもいいですね。

一番印象に残る曲は？

私はもともとその…これもね、中国系の人だけど、ヨーヨー・マが好きなんです。マヨーヨー、知ってる？

チェリストですね。チェリストのヨーヨー・マっていうんですけど、日本名ではね。その人の演奏はとても素晴らしいだと。チェリストやっぱり世界一じゃないかなと思いますね。だからいろんな中国人の方は中国系の方が活躍されているので、とても、私は中国系の芸術家の才能がとても素晴らしいと思いますね。

中国に限らず今まで一番印象深い曲は何ですか？

今聞いてもらったブルックナーの曲です。ブルックナーの曲というのはなかなか知られてないんですけど、とてもあの一、なんていうかな？音響が音響の使い方がすごく上手な作曲家なんですね。で元々聖職者、分かりますか？キリスト教の寺院に努めたオルガニストですね、オルガンを弾く人。でオルガンを弾く人だったのが、作曲家になって、さっきのような壮大な曲を作っている訳ね。だからさっき聞いた曲っていうのは、とても私にとっては印象深い曲ですね。初めてあんな大きな？もうさっきすごかったでしょ？管楽器だけでも八人ぐらいと並んでね、あんな大きいオーケストラがなかなか作れないです。で、それが結構出すのが有名でしたから、あれに出れて私はもう、本望ですということですね、とてもいい体験をしました。

先生は今までの人生を段階に分けられますか？

はあ、段階ね。私はそうですね。普通に小学校、中学校、おいてですね。高校に入りましたが、高校ではね、ちょっと不良でしたね。あまり勉強しなかったね。勉強が嫌いでしたね。

でも、最後は東京外国語大学に入りましたね。

そうですね、最後の年に頑張っただけです。それもすうつうですね。やっぱり普段はね、そういう感じだとしても、やる時はやるじゃんな感じ？というのは私のモットです。だから、そんなにずっとね、緊張感を持っているわけにはいかないから、やるときには頑張っただけでやらないと。皆さんもね、受験とか、頑張っていると思うんですけども、そういう感じでやっていけば必ずいいことがありますよ。受験だけじゃないですね、人生の目的は受験だけじゃなくて、受験で合格してからの、やることですね、まあ、これから皆さん、大変ですよ。周り全部日本人わかる。中国人の友達って、そんなにいないでしょ？だから、私が思うのはやっぱりその中でもちゃんと日本人と友達を作ることですね。じゃないと、なかなか楽しくないし、楽しいためにもね、とにかく、私も中国で一人でいた時は、誰からともなく声掛けましたね。誰でもいいから、私の中国語を直してください、と、言ってね。いろいろ直してもらいました。曾根さん、そんなこと言っちゃだめだとかね、いろいろありますよね。私には分からないなら、日本人には分からないなら、そういったことを直してくれる人はね、やっぱり持ってたほうがいいですね。信頼的友達ね。これは一番、まあ、人生の宝ですね。

って、私は段階的に言うんですけど、そういう会社に入ってからでもいいですね。わりと大変な経験ですね。色んなところに行きました。私は幸いにも海外営業はながかったんで、とにかく全部で大体50か国以上は行っていましたね。本当にどこにも会社に行かせてもらったんで、会社のお金で行ったので、私はお金が全然使ってない。本当に会社には感謝していますね。そういうことですね。その中でも例えば、最初の年？会社入った年？は京都にいたんです。そこは工場があって、京都の工場で働いていました。工場で現場の実習もあったし、いろいろ貴重な体験を持ちました。

それから、30歳になって、30歳になったら、東京に行きました。東京に来て、それで、東京で海外営業を始めました。その中で、最初の10年間はアメリカ？次の10年間は…で、最初の10年間は30から40ですからね。40から50は中国、50から60はロシア。いろいろメインにやらしてもらって、プロジェクト関係ですね、けっこう大事な仕事が終わったんですけども、プロジェクトで、外国人と交渉する仕事、ずっとしていました。交渉する仕事で一番大変だったのはやっぱり中国人ですね。中国人になかなか負けてくれないですね。いろいろな面でね。だから、それはけっこう苦労しました。そういうことですね。だ

から、人生分けるとすると、そういう感じで、 アメリカ、中国、ロシア、やってそれからそれが終わって、60代から日本人の先生になった。こういうふうですね。段階的に分けています。

先生がさっきおっしゃったとおりに、例えば30代から40代まではアメリカにいるとき、それぞれの段階に、それぞれの国にどのような音楽を聴いていましたか？

そうですね。アメリカにいた時は、カントリーミュージックが好きで、カントリーミュージック分かるかな。田舎の音楽ですね。要はギターとかバンジョーとか、独特な楽器があるんです。田舎の感じの、する音楽ね、カントリーミュージックって言うんですけど。それをよく聞いていましたね。あとは、アメリカのポップスなんかも、よく聞きましたね。

それから、中国にいた時は、中国はいろいろ勉強しましたね。いろんな歌手とか、いろんな歌を聞いたりとか、まあ、テレビで見ればね、必ずやっていますよね。中国の番組で、音楽の番組はね、あるでしょ？それを見て。あれは必ず字幕が出てきますね。だから、わかりやすいですね。あれでよく勉強しましたね。「あ、この歌、いいな」とか、「自分で歌いたいな」と思って、カラオケによく行きましたね。そういうことです。

後は、ロシアはね、昔から大学のころから、興味があって、短期留学ともしてたんで、ロシアの音楽はよく昔から馴染みがありました。さすが今はちょっと新しくないですね。ちょっと古い音楽が多いので、あまりロシアでは、そんなにたくさん聞きませんでしたね。ロシアの作曲家、クラシック音楽、そういったもののほうが伺ったほうがですね。

じゃあ、ロシアにいた時は、あまり音楽を聞かないということですか？

チャイコフスキーとかは、聞いていましたけど。演奏会となんかに行って、オーケストラの演奏会だとか、室内楽とか。室内楽とか分かりますか？小さい編成、例えば、バイオリン、ヴィオラ、チェロ、ベース、ピアノとかね、という小さい編成の音楽、そういったものをしました。

それもシンフォニーですか？

シンフォニーじゃなくて、小さい、小編成の、一人ずつでやるやつだね。バイオリン2人、ビオラ1人、チェロ1人とかね。そういった小さい音楽？楽団？バンドみたい感じ。そういうので、**大きい台**とかでしてましたね。それはおもしろかったですね。

じゃ、音楽は先生の人生に影響や啓発をもたらしたことがありますか？

あ、影響と啓発。難しいですね。そうですね、私にとっては、音楽というのは、とても良

い友達みたいなことですね。だから、いつでもそばにいる。いつでもそばにいて、いつでも一緒に楽しむことができる。それも、やっぱり聞くだけじゃなくて、何か楽器をやること、これは、とてもね、とても楽しいし、とても有意義に時間を過ごせる方法だなと思いますね。だから、皆さん、機会があったら、ぜひ、何でもいいので、楽器をやって、他の人と一緒にやるとね、すごくいいですよ。これはお勧めしますね。

最後に先生が何かお勧めの楽曲ありますか？

お勧めの楽曲ですか。どういうものが知りたいですか？日本音楽を知りたいとか？そうじゃなくて？

何でもいいんです。

何でもいいですか。勧めの楽曲ね、最近これは！っていうのがなかなかなくてですね。普通に聞き流している程度なんで、それほど「これはすばらしいから、みんなで聞いてほしい」とか、それはないんですけども、さっき話したあのね、周杰伦、最近の作品だとか、それから、そうだな、あれはまあ最近が一番驚きましたね。ああいう発想というのがね、なかなかある人は少ないですからね。　そういったことがやっぱり素晴らしいです。また、周杰伦のラップミュージック、あれも何か自分で歌えるなんかって思ったんだけど、中国語の早口は無理ですね。なかなか難しいですね。

お勧めの曲といたら、そうだな、なんだろうなあ。ちょっと、すぐには出てこないですね。

大丈夫です。さっきのシンフォニーは？

シンフォニーね。あのう、シンフォニーはクラシック音楽はね、ベートーベンとか、モーツァルトとか、有名な曲はたぶん皆さんよく知っていると思いますけど。知られていない曲、たくさんあるのでね、とてもいい曲、たくさんあります。このブルックナーにしてもそうだし、あと、マーラーっていう人のね、曲ね、とても長いんだけど、長いんだけど、とてもリズム感とか、あと、旋律の綺麗、美しさのともあるし、そういった音に挑戦して、聞いてみるといいと思いますね。ただ、大抵最初の場合は、10分ぐらいで寝てしまいますね。まあまあ、最初はそんなに**勉に聞こう**としないで、まあ、少しずつ聞いていただければいいかなと思いますね。

シンフォニーといえば、この前私も、京都アニメーションの『響け！ユーフォニアム』というアニメの吹奏楽の公演で見ましたが、本当に素晴らしかったです。

吹奏楽はね、日本もけっこうわりと新進的な感じの、上手な学校が多いですね。私の娘も高校の時は、吹奏楽部にいたんですけど、全国大会に絶対出られなくて、東京地方大会ぐらいでやっと、なんか出られたぐらいの感じで。まあ、そこ以上は進めなかったけど、それでもやっぱりね、そういうことやっていること自体が、とてもいいかなと思いますね。

挑戦すること自体は、すでに素晴らしいと思います。

だから、自分でやっぱり主導的に動いてやる趣味、これがやっぱりいいですね。音楽を聞くというよりも、音楽をやる、自分でやる、これはお勧めしたいです。これは私のおすすめです (笑)。

はい、では、本日のインタビューはこれで終わります。